不定期刊行　　第458号　2012.08.15

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

夏山縦走パート１

前号の発行からほぼ１ヶ月、夏山ハイシーズンである。今年の夏は極めて夏らしい夏だ。8 月 1 日から 3 日まで池工の山岳部の生徒たちと蓮華温泉、朝日、白馬、小蓮華、白馬大池、蓮華温泉と一筆書きでぐるっと一回りした。1 日、6 時半に学校を出発し、蓮華温泉に到着したのは午前 9 時。すでに日は高く上がり、登山口から今日明日のコースを望むと、最初に目指す五輪尾根が朝日岳に向かって続いている。「今日のコースは長いぞ」としっかり覚悟を決めて歩き出す。兵馬の平を経て瀬戸川までは 1 時間強の下り。生徒たちの様子は順調だ。次の１ピッチはひょうたん池まで、白高地沢には以前はなかった立派な吊り橋がかかっていてビックリした。このあたりで上から 100 人ほどの中学生の団体が下ってくるのに遭遇したが、聞けば朝日岳の麓富山県の朝日中学校の 2 年生だという。朝日中学校では毎年その名の由来ともなっているこの山へ富山側から登っているとの由だが、富山側からのアプローチの北又林道が昨年の豪雨で崩れ未だ不通の今年は、例年とコースを変えて新潟側からのこの道を使って実施したとのことだった。

中学生の一団をやり過ごすと徐々に傾斜が急になり、いよいよ長い五輪尾根への取り付きとなった。50 分に１本のペースで登っていく。残雪が多く雪解けが遅れたからだろうか、一気に花開いたお花畑は百花繚乱、このコースの面目躍如である。水も豊富で疲れた身体にはありがたかった。

2 日目は白馬岳への道。昨日同様今日も天気は上々、雲一つない。4:40 テン場を出発。夏山ハイシーズン故、逆コースで回る高崎工業、山形の専門委員長高梨先生率いる楯岡高校と県外の高校山岳部も訪れていた。これら２パーティと朝日岳山頂で別れ、こちらは南下、雪倉を目指す。朝日からの急坂を下り赤男山との鞍部で 1 本。湿原の水芭蕉はまだ小さい。赤男山を巻き終えると燕岩。行く手はるかな雪倉を目指しゆっくり確実に一歩一歩を刻んでゆく。10:40、雪倉山頂に到着。避難小屋を見下ろし、そのまま縦走路を目線で追う。まだはるか彼方ではあるが、白馬岳が大きくなってきた。鞍部への下りでは雷鳥の親子がひょこひょこ登山道に現れて、砂浴びをしていた。12:00 鉢ヶ岳の東斜面の雪渓の下で水を補給。水を頭からかぶり湿したタオルで身体を拭くと新たな元気が湧いてきた。疲れ気味の生徒たちも大はしゃぎ。気合いを入れ直して三国境へと進む。

14:30 三国境を通過。ここの西斜面は一面コマクサの大群落。ちょうど見頃で、ピンクの斜面となっていた。朝からの行動時間はすでに 10 時間を越え、生徒は疲労困憊。最後の登りは一年生には相当応えたようだ。励まし、おだてながら 15:40 ようやく白馬山頂に到着した。三国境あたりではガスが出てきていたが、山頂では我々の到着を待っていたかのようにガスが切れた。テン場まで下ると、今日入山し 4 泊 5 日で後立山を全山縦走をする大町高校山岳部の面々がすでにテントを張って我々の到着を迎えてくれた。テン場到着は 16:15。本日の行動は 12 時間に迫っていた。本日の夕食はポトフとペンネ。美味なり。生徒たちの料理のレパートリーも次第に増えてきた。

最終日も雲一つない中、3 時起床、大町高校の面々に別れを告げ、4:30 には出発した。

4 月に入学した 1 年生部員もだいぶ手際がよくなり、1 時間半でテントの撤収ができるようになった。山やは山に登ることで山やへと育っていく。白馬山頂に立つと昨日辿ってきた朝日から続く稜線が見渡せる。一方で南には後立山のやまなみがずっと続き、槍ヶ岳の尖塔や穂高まではっきりと確認できる。黒部谷を挟んで西には剱立山の峰々が、みな個性的な姿で聳立している。これから行く小蓮華、白馬大池方面を確認した後、稜線漫歩を始める。やはり人気の山域だけあり、昨日と比べると登山者は比較にならないほど多い。2 年生にとっては、去年の秋逆コース（栂池～白馬～鑓温泉）で登った道である。6:45 小蓮華山頂着、7:50 船越の頭着、5 月の連休の事故と我々の状況を生徒に簡単に解説する。何もなければこんな素晴らしい山が、魔の山へと変わる恐ろしさを伝えた。

ルンルン気分で大池に到着したのは 8:30。ここで生徒には行動記録の整理をさせ、大休止。3 日間の縦走も最終盤である。天気にも恵まれ、快適な山行であった。最後につまらない怪我などをしないよう自他ともに戒めて、8:50 に下山開始。このルートを辿るのは僕にとっては初めての経験だった。途中天狗の庭という露岩帯で 1 本とる。対斜面に朝日岳が遠望しながら、徐々に高度を下げていく。蓮華温泉が見えると生徒たちからは歓声があがった。どうせ 1 本では下れないと、10:45、1750m 地点で最後の休憩を入れた。11:30 には蓮華温泉に到着し、3 日間の汗をゆっくり流した。今回は資格取得試験などの関係で一年生が 4 人、2 年生が 1 人というメンバーだったが、みんなよく頑張った。

インターハイを終えて

4 日から 11 日まで新潟県の湯沢町、苗場、平標、三国峠で開催されたインターハイに出かけてきた。今年から副部長となったので、主催する側の一人としての参加となった。僕自身は久しぶりの全国大会への参加ということで、当初は不安ばかりが先立っていたが、幸いにも顔見知りの先生方ばかりの新潟県での開催と言うことで、本部にいても気疲れすることもなく居心地がよく、大変にありがたかった。新潟県の本部役員の先生方にとっては、大会直前のアクシデントで、役員交代などもあり、最後まで気苦労の絶えない日々だったと思うが、登山隊長中村先生、総務の眞島先生はもとより関係されたすべての先生方のご尽力でいい大会となった。僕自身は基本ずっと本部にいて、推移を見守っていたわけだが、何より天候にも恵まれたことが大会をさらに盛り上げた。それにしても、高体連と山岳部 OB、OG をあれだけの規模で動員することができた新潟県高体連登山部の底力には驚いた。本部、設営隊、行動隊のいずれにもきちんと指示が行き届いており、立派に大会が運営された。本県参加校（男女とも県ヶ丘高校）の結果は男子 8 位、女子 16 位ということであったが、上位との差は僅差であり、よく頑張ったと思う。お疲れ様でした。

さて、大会は成功に終わったが、一方で全国高体連登山専門部としては秋の常任委員会に向けては課題山積だ。今年から名称も明確にして位置づけた「チーム行動」については、大会期間中にいろいろな方から意見をいただいた。これの在り方については、今年度の実際の状況を把握し、良い点、悪い点をきちんと総括して検討を加えるべきだろうと思う。また、この秋にも決定される見通しの総監督制度の廃止とそれを受けての「総監督隊」の存続も待ったなしの課題である。これらは総監督シンポジウムでも議論されたが、常任委員会としてきちんと対応をしていかねばならない。それにしても、8 日間の苗場プリンスでの生活は快適ではあったが、一回ぐらい山に登りたかったなあ・・・。